



笠置町河合道木
林 亜里佐さん (50歳)

□プロフィール

笠置女子会（通称「か〜じょ」）代表で、地域協議会のメンバー。放課後児童クラブの会計係、地元のカヌークラブのボランティアなどを行っている。好きなことは読書。友人と話をすることがパワーの源。



▲イベントで子どもたちにインタビューをする林さん

人とのつながりを大切に
楽しみながら地域を活性化する

令和元年6月、地域協議会会長の協力で、笠置女子会（か〜じょ）は発足した。乳幼児学級を卒業した子どもの母親が中心となって組織している。その代表を務めるのが、林亜里佐さんだ。

笠置女子会は、子育て世代の母親たちが、子どもたちと楽しみながら地域を知り、好きになることを目的に活動している。主に事業を企画するメンバーは、林さんを含め6人。運営に協力するサポートメンバーが12人いる。メンバーが集まると「次から次へとアイデアが生まれ、尽きることがない。」と笑う。

これまでに、地元の祭りや、オリジナルイラストのカバンを販売したり、映画会や百人一首大会などを企画したりした。中でも一番大きなイベントが「防トレジュニア」だった。多角的に防災を学ぶ機会にしようと、防災会議（地域協議会）や市消防団笠置分団、女性防火クラブに講師を依頼し、地

域ぐるみで防災イベントを開催。災害倉庫の備蓄点検や、簡易トイレの使い方、毛布担架訓練などを行った。多くの人に関わってもらい、参加した人からも好評だった。「地域の人がとても温かく、協力的でありがたい。感謝しかない」と話す。

林さんは、実家のある中野方町で母親が営んでいた美容室を継いだ。活動を始める前は、仕事と家事や育児を両立できるのか、不安や葛藤があった。限られた時間を有効に使い、メンバーで協力しながら活動していくと、子どもたちをはじめ、イベントに参加した人たちが楽しんでくれた。その笑顔で「始めて良かった」と思った。どのイベントも後悔はなく、良い経験になった。

「人と人とのつながりを大切に、親子で楽しみながら活動することが、地域の活性化につながれば」と笑顔で話し、今後の活動に意欲を見せた。



その他の話題もウェブサイトに満載

6/15

85歳現役、第21回東海マスタース陸上競技選手権で3冠



宮地祥敬さん（山岡町）が、ベテラン陸上選手による大会のM85（85歳～89歳）クラスに出場し、60m、100m、立ち五段飛びの3種目で優勝しました。立ち五段飛びでは、大会新記録もマーク。「今後も、日本記録を目指して頑張りたい」と意気込みを話しました。

6/11

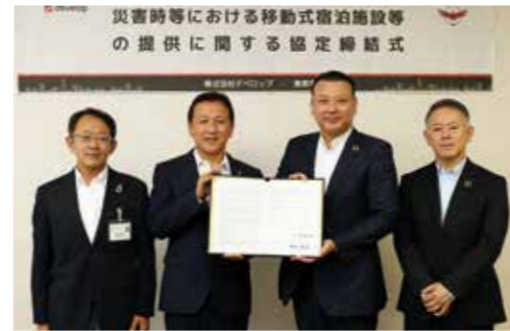
堂々とした発表
中学生が熱い思いを語る



第18回市少年の主張大会で、各中学校から推薦された生徒10人が熱い思いを発表しました。最優秀賞は恵那東中学校3年生の林利々樺さん。「みんなで暮らす社会」と題し、障がいに対する正しい理解などを訴えました。林さんは、8月2日の県大会に出場します。

6/28

災害時にコンテナ型ホテルを
避難所として提供



市内でコンテナ型ホテルを運営する㈱デベロップと市は、災害時における移動式宿泊施設等の提供に関する協定を結びました。この協定により災害時に宿泊施設が必要な場合、要請に応じて、同社が所有、保管する建築用コンテナが避難所として提供されます。

6/20

親子で体験
笠置峡でカヌー教室



地元の自然と触れ合おうと、やまびここども園で親子カヌー教室が行われ、年中児親子11組が木曾川の水上散策を楽しみました。参加した成瀬樹君は「初めて乗って楽しかった。また乗りたい」、父親の博也さんは「親子でとても楽しむことができました」と話しました。

7/7

SSH（スーパーサイエンス
ハイスクール）の発表会



恵那高等学校理科3年生によるSSHの研究発表が行われました。「ジュースの凍り方」を研究したグループは、凍ったジュースの部分的な甘さの違いに着目。凍らせたペットボトル内に既に糖度の差があることを発見しました。生徒らは「今後も研究を続ける」と述べました。

7/3

少年消防隊が
防火・防災の訓練活動を実施



市少年消防隊61人が本年度の初訓練を行い、救急訓練や地震体験などを通じて、災害時の対応を学びました。救急訓練では、心臓マッサージを体験。想像以上に大変な動作に驚いていました。隊長の安藤摩斗生君（申原小学校6年生）は「とても勉強になった」と話しました。